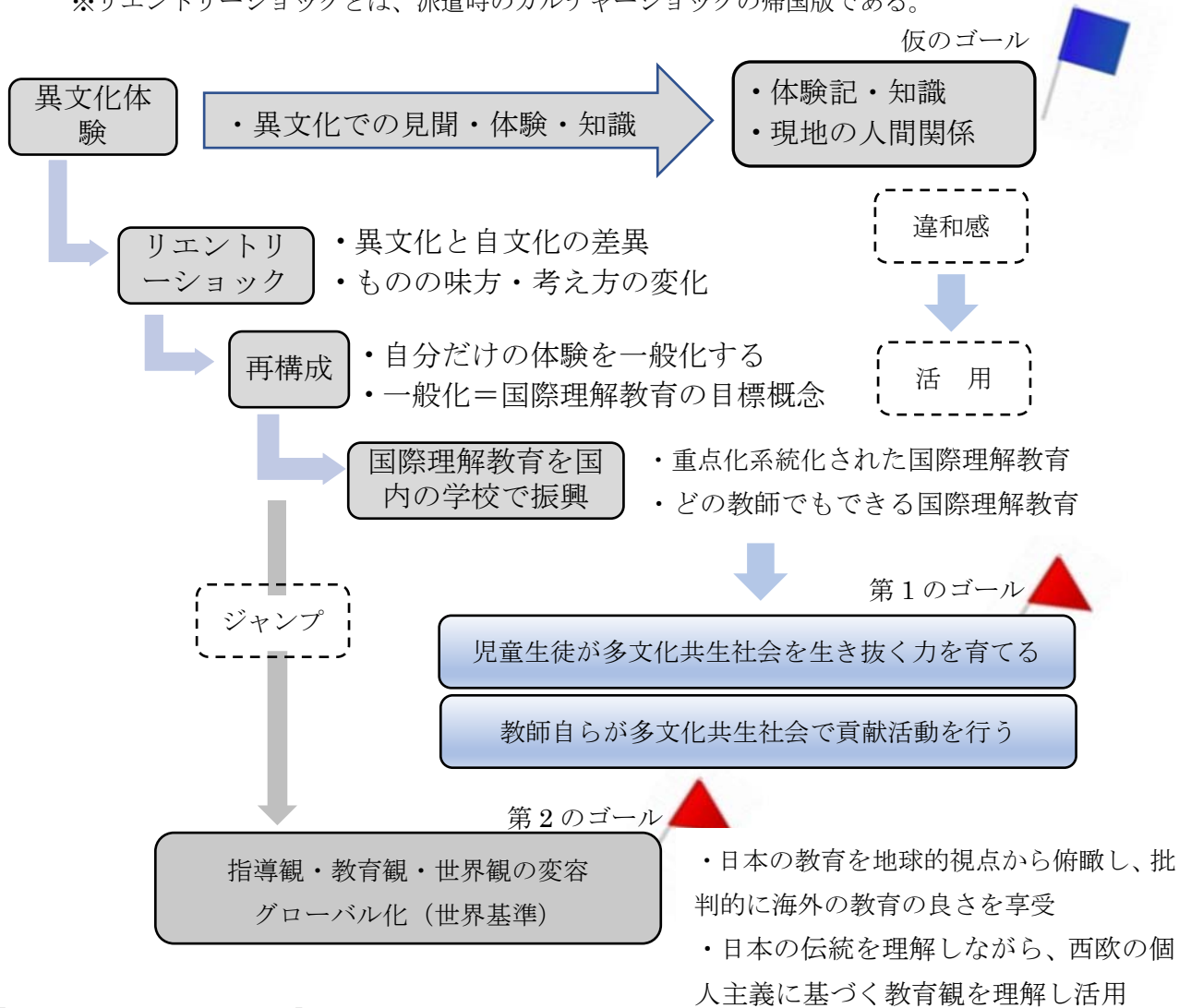


1	<p>異社会・異文化・異言語に接する中で、印象的な出来事を3つ思い出して「2」の欄に書いてください。その体験に「見出し」をつけるとしたら、下の一欄の国際理解教育の目標項目のどれに当てはまりますか。「2」の番号欄に書いてください。「知識」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの観点から、必ず入るように選んでください。つまり、最低3つの欄は埋めてください。下の一覧にない場合は、自分が考える目標項目を「その他」の欄に書いて、その番号を書いてください。</p> <p>◆「知識」          ① 国際友好・平和 ② 文化的多様性と共通性 ③ 相互依存 ④ 正義・公共性 ⑤ 共生          ⑥ 持続可能性 ⑦ 民主主義</p> <p>◆「思考力・判断力・表現力」          ⑧ 偏見・差別・ステレオタイプを見抜く力（批判的思考力） ⑨ コミュニケーション力          ⑩ 課題解決能力 ⑪ 想像力</p> <p>◆「学びに向かう力・人間性」          ⑫ 人権意識 ⑬ 寛容・共感・エポケー ⑭ 協力・協調性 ⑮ 誇り・自尊心          ⑯ 行動・参画 ⑰ グローバルな意識</p> <p>◆その他 (⑱ _____ ⑲ _____ )</p>										
2	<p>それはどのような体験から、どのように考えたのですか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; height: 100px;"></td> </tr> </table>	番号		番号		番号		番号		番号	
番号											
番号											
番号											
番号											
番号											
3	<p>教師として、指導観・教育観は変わりましたか。もし、変わったとしたならば、帰国後どのように生かしていこうと思いますか。</p>										

4	<p>自分の体験を、国際理解教育の目標として一般化することができましたか。 では、指導のための自分なりの国際理解教育の全体構想図を簡単に考えてみよう。</p> <p>大目標 <input data-bbox="292 210 1366 353" type="text"/></p> <p>それを実現するための3つの小目標 (重点化する必要があります!)</p> <p>① _____ ② _____ ② _____</p>
5	<p>※具体的な指導方針 (こんなことをやってみたい!) (今こんなことをやっている!)</p>

# ☆派遣教員はいかに異文化体験をカリキュラム化できるか？☆

※リエントリーショックとは、派遣時のカルチャーショックの帰国版である。



## 【派遣教師のキャリア形成】

派遣教師は、派遣という海外体験を通じて、指導の3観点に当てはめると、次のような変容が起きる。第1のゴールは、「知識」から、第2のゴールは「思考力等」「教えに向かう力・人間性」からスタートする。

知識の観点から	思考力・表現力等の観点から	教えに向かう力・人間性から
<p>海外の様々な知識や経験、人間関係を活用して、国際理解教育を学校や地域で推進する。</p> <p>帰国子女や外国人子女の対応で、心理面も含め海外生活の体験が生かされる。また、外国人への日本語教育において貢献できる。</p> <p>○学校の校務分掌や市町村教育委員会から国際理解教育に関わる職務に配置され、海外の知見を活用し活躍する。</p> <p>○各都道府県の国際理解教育研究会や地域のボランティア団体、日本語指導教員などの活動を率先して行う。</p>	<p>ものの見方・考え方に変容が起こる。批判的な思考力や表現力を身に着ける。</p> <p>ものの見方・考え方に変容が起こるので、国際理解教育にこだわらず、柔軟な視点視座から様々な課題に対応できる。</p> <p>文科省の教育改革に対してもグローバルな視点からスムーズに受容・理解でき、学校におけるリーダー的な存在として職務を遂行する。</p>	<p>ものの感じ方・行動の仕方・態度が変容する。人権意識・寛容・異質性の受容など。</p> <p>海外での生活の中で「異質なもの」「理解できないもの」に対する受容の態度など、寛容性・協調性・エポケー・人権意識が、異文化・外国人との接触の中で培われる。</p> <p>児童生徒とのコミュニケーションの在り方や教育観が変わる。生活指導のありかた、グループ指導や部活動指導が変わる。相互交流的な学びを大切にする。</p>
<p>✗ 個人的な経験や知識の披露、教材製作に留まると、期間限定で広がりのない実践に終わったり、自ら「派遣隠し」を行ってしまう。</p>	<p>✗ 海外で身につけた異なるものの見方・考え方が、国内では理解されないと思う。また、「海外では」という言い方で反感をかってしまう。</p>	<p>✗ 校内で新しい方法や考え方を説得することが難しい。教育改革やICT化にしり込みする。</p>